

クラス番号	901	担当教員名	木全 和巳
テーマ	「当事者」／「と」「に」「から」／ 学び合い、育ち合う、社会福祉実践の創造と探求		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

「当事者」とは、本人はもちろんのこと、家族、きょうだい、支援者など、自分と社会との問題を自覚して、コトにあたるひと、コトに立ち向かうひと、社会問題を自分のこととして、解決に向けて責任を引き受けようとしているひとのことです。

さまざまな機能障がいのある「当事者」、虐待を受けた「当事者」、児童養護施設で育った「当事者」、生活保護を受けている「当事者」、「在日」の「当事者」、一人親で子育てをしている「当事者」、被爆を受けた「当事者」、被災をした「当事者」、LGBTの「当事者」など、本人たちを中心として、こうした人たちの語りを通して、本人たちが、どのような「生活の困難」や「生きづらさ」を感じながら、他者とつながりつつ、こうした課題をどのように向き合い、社会的に解決していこうとしているのかを、直接本人に聴く、関係者に聴く、書いたものを読む、映像を観るなどを通して、学び合います。

インタビューの練習をしながら、「当事者」から聴き取り、学ぶちからをつけたいと思います。

社会の主人公として、誰もが例外なく、個人として尊重され、しあわせを求めることは、大切な人としての権利です。現実には、社会的にさまざまな要因で、社会的に排除をされている人たちがいます。こうした人たちとつながり、支え、エンパワメントしあうことがソーシャルワーク実践です。「わたしたちぬきにわたしたちのことを決めないで」は、障害者権利条約の採択を目指したときの当事者たちのスローガンでした。まずは、「当事者」たちが何をねがい、どこに困り、どうしたいのかを知らなければなりません。そのためには、まずは、「当事者」から学ぶちからが必要です。基礎演習では、当事者からの聴き取りをまとめることを通して、当事者が向き合っている課題と課題が出てきた背景、課題解決の困難さの要因、それでも必要な課題解決の方法について、各自が聴き取り、綴り、報告し、話し合うことを通して、学びを深めていきます。

授業計画：

前期は、映像なども観ながら、みなさんがどんな「当事者」に関心があるかも含めて、話し合います。

ゲストを呼びます。聴き取りの練習をします。たくさん書きます。

夏休みには、自分の興味あるテーマを決めて、文献で課題を探り、質問項目も出しながら、現場などに出席「当事者」に聴き取りをします。録音したインタビューを文字におこします。A4で四枚以上書きます。じっくりと自分の興味関心と他者たちとのつながりを深めます。

後半は、聴き取りレポートの発表をしながら、学び合います。そして、報告書として、A4六枚程度でまとめます。そして、冊子にして、完成です。

担当教員からのメッセージ



まずは、他者の人生や生活に興味をもち、話を聴くことが好きなことが大前提です。対話と討論などをしながら、じっくりと深く、納得のいくこたえを粘り強く出していく作業をいとわないかたが向いていると思います。ていねいに綴ること、他者の声に耳を傾けること、社会の問題と自分の問題とを重ね合わせつつ考えていきたい人が、向いている人かもしれません。社会という自分の周囲で起こっていることを「わがごと」として捉えていこうとするちからをつけたいですね。ゼミそのものが楽しいではなく、伝えあい、学びあいながら、わかるということ、新しい自分に出会えることが楽しいというゼミにしたいです。フィールドに出て、話を聴くことができること、人の話をしっかりと聴き取ることを大切に思い、このことが好きなのでない、むずかしいかもしれません。

「おとな」になりたい方、仲間とともに自主的に学び合いたい方、実践者としてほんとうにちからがつけたいとねがいをもっている方が対象です。当事者の人権をほんとうの意味で大切にしたい人を求めます。聴き取りというめんどくさい作業をします。表面的には、楽しくありません。困っているひとに寄り添うことなのですから。こうしたことをやってみたい人が対象です。とてもきびしいですよ！！！！